

# 広報 やまこし

1983  
9月  
第183号

発行/新潟県古志郡山古志村役場 電話 (025859) 2331 ■印刷/大川印刷株式会社 ■9月2日発行



9月1日は防災の日

## 村単ほ場整備・農道舗装

### 59年度申し込みは9月末までに

五十五年度より実施されているほ場整備(田の切り直し)、農道舗装の村単補助事業の、五十九年度分の申し込みを受け付けます。希望者は九月三十日までに申し込んでください。

この補助事業は、村の立地条件に合わせ、小規模なほ場整備、勾配の急な農道を舗装することにより、農業経営の近代化を図っている。ただこうというものです。補助率は二〇%ですが、事業は次の基準に合わなければなりません。

- (一) ほ場整備(田の切り直し)
  - (一) 事業は個人または共同で、一団地二〇アール以上。(面積は水張り面積とする。)
  - (二) 畦畔の土羽の勾配は一割、築立の内法は八分、外法は一割以上。天端幅は一・〇m以上。
  - (三) ほ場整備に付帯して農道を作る場合、起点は国、県、村、農林道とし、延長二〇〇m以内、幅員三・〇m、勾配一五%以内で、車両通行可能なもの。
  - (四) 水源(井戸、ため池等)は補助対象外とする。
- ▼農道舗装
  - (一) 勾配が二一〜二七%で、工事延長が二〇〜一五〇mのもの。
  - (二) 舗装はコンクリート舗装で、舗装厚は一〇cm。



(三) 測溝(U字溝)を敷設すること。(新設の場合は補助対象)と。申し込み

申込用紙は、役場建設課農地係に用意してあります。詳しいことは係までおたずねください。

なお、村財政も厳しくなっていますので、事業内容と補助基準をよく照らし合わせ、安易な申し込みとならないようお願いいたします。(建設課)

## 行政苦情一一〇番を開設

新潟行政監察局では、みなさんがお役所仕事に対する苦情や相談を気軽にできるよう、「行政苦情一一〇番」を設けました。

同監察局は昭和五十七年度に県民から約五千件の苦情、相談を受けていますが、「行政苦情一一〇番」の開設により、さらに迅速な解決を図ります。

「行政苦情一一〇番」  
☎〇二五二二四一一〇〇  
受付時間  
平日 八時半〜午後五時  
土曜 八時半〜十二時半  
※なお、行政相談委員畔上才次郎(木籠)も相談を受けていますので、この制度も気軽にご利用ください。(新潟行政監察局)

## 停電のお知らせ

9月7日(水)  
8時〜12時  
区域一種芋原、池谷、檜木

## 献血にご協力ありがとうございました



8月24日に献血車「ゆうあい号」が来村し、次の71人の方々(不採血者も含む)からご協力いただきました。善意の献血に感謝します。

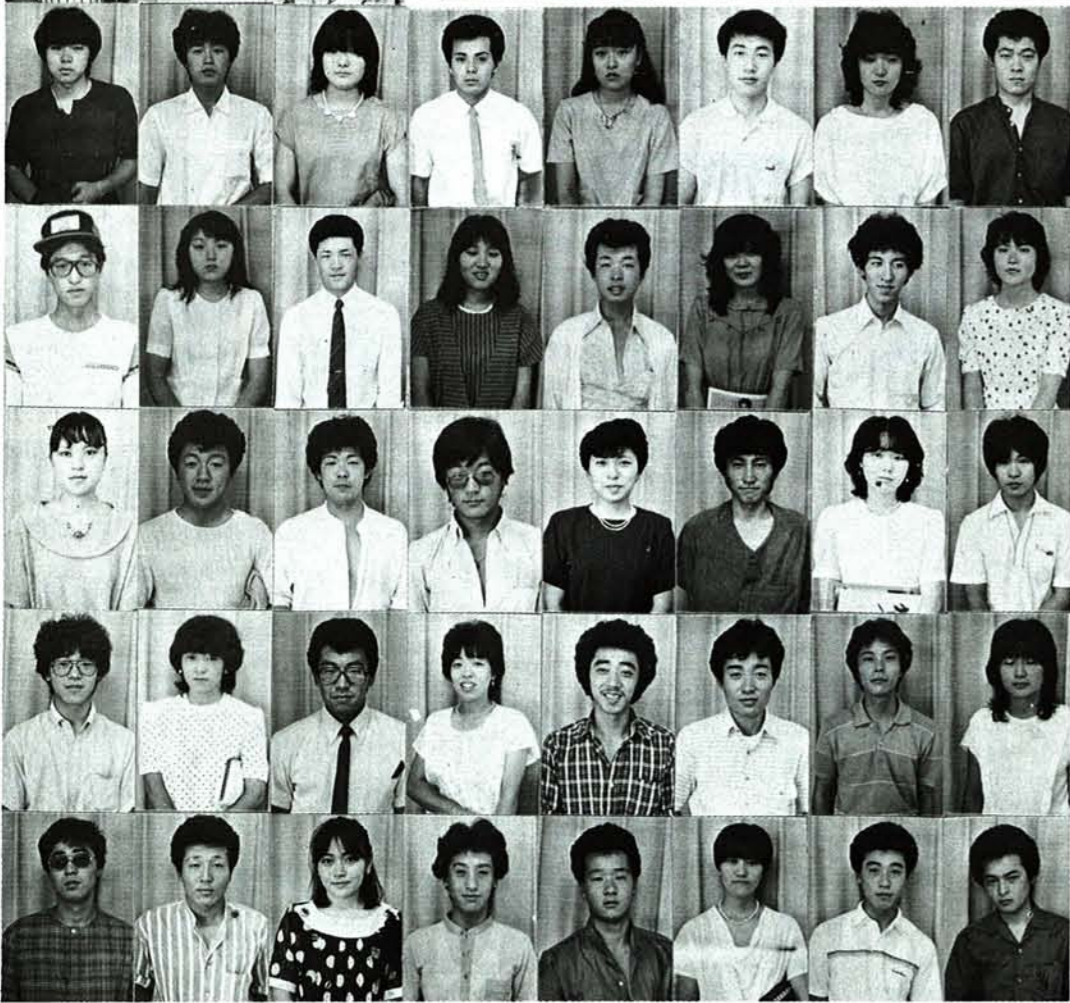
- |       |        |       |
|-------|--------|-------|
| 東竹沢   | (敬称略)  | 五十嵐喜代 |
| 五十嵐 務 | 小川 清一  | 川上 孫一 |
| 小川 秋子 | 松崎六太郎  |       |
| 竹 沢   | 小川 勝行  | 関 稔   |
| 小川 敏郎 | 星野テルエ  | 高野 シズ |
| 星野清剛  | 高野 初美  | 川上のり子 |
| 高橋 武俊 | 小川 加久  | 星野 吟二 |
| 小川 加久 | 小池 順子  | 星野 敏雄 |
| 星野三男三 | 川上 春雄  | 星野 秀雄 |
| 高野 トセ |        |       |
| 南 平   | 畔上みづほ  | 齋藤多真子 |
| 畔上 勝  | 虫 亀    |       |
| 五十嵐ミヨ | 長島イウ子  | 長島世津子 |
| 田中 悦子 |        | 佐藤 丈平 |
| 種芋原   |        | 酒井 一郎 |
| 草間 頼雄 | 小沢 亀治郎 |       |
| 坂牧 広志 | 坂牧 良一  |       |
| 小川 藤雄 | 樺沢 恵子  |       |
| 小幡 正夫 | 小幡 玲子  |       |
| 佐藤 幸夫 | 小川 六一  |       |
| 樺沢 勝男 | 金内美佐子  |       |
| 草間 綾子 | 川上 長作二 |       |
| 坂牧 聡  | 小川 勇   |       |
| 金内ハルノ | 小川 勝子  |       |
| 佐々木道夫 | 河野 寛   |       |
| 坂牧 イミ | 小幡 シズ  |       |
| 坂牧日出男 | 金内美代子  |       |
| 小川 光子 | 小川 弥生  |       |
| 坂牧あき子 | 坂牧 澄子  |       |
| 坂牧二三子 | 坂牧 忠雄  |       |
| 坂牧 和栄 | 坂牧 金内  |       |
| 山口 和一 |        |       |
| 村 外   |        |       |
| 石原 十八 | 菊入 淳   |       |
| 保科 弘  | 田上紘三郎  |       |
| 山田 和雄 |        |       |

## 大人になった顔、顔……

### 成人式

8月14日、成人式が行われ、53年春に中学を卒業した49人(対象72人)が出席しました。お盆に成人式をするようになって5年目。里帰りしたなつかしい顔も合わせて話はずみ、まるで同級会のようにです。

役場での成人式も今年が最後。来年からは新築される「ミセン」で行います。



# 長寿ばんざい

9月15日『敬老の日』、15日～21日は『老人福祉週間』です。お年寄りの長寿を祝い、老後の生きがいと健康を高めようというものです。

そこで今回は、米寿(88歳)を過ぎた人および今年度米寿を迎えた人(明治29年4月1日以前に生まれた人)15人を紹介しましょう。

## 9月15日は敬老の日



西原 ツノさん 92歳  
(虫亀 熊太郎方)  
根気よく毎日草取りを。婆ちゃん仲間が遊びに来るのが楽しみ。



田中 フジさん 92歳  
(虫亀 清一方)  
目も耳もはっきり、腰もシャンとし、縫いものや草取りも。



藤井 カツさん 94歳  
(橋本 勲方)  
体はマメ。足が丈夫ならどこまでも遊びに行けるんだが、と。



五十嵐栄吉さん 89歳  
(虫亀 登方)  
近ごろは外に出ませんが、体も悪い所なく何でも食べます。



浅染 ムメさん 89歳  
(木籠 伊吉方)  
物覚えが抜群で、しまいものはお婆ちゃんに限るとか。体も達者。



佐藤 シカさん 90歳  
(虫亀 タケ方)  
家の前の畑で草取りしたり、大根まいたり。テレビも見ます。



### 村で1番のお年寄り

五十嵐兼吉さん 94歳  
(梶金 正夫方)

明治22年1月生まれ。驚くほど元気で、腰も達者です。「雨が降れば外にいらんね、雨が降らねば家にいらんね」と、畦の草刈りや、7年前から植え始めた杉の木5,000本の下刈り、枝打ちにと、毎日精を出しています。



川上 シゲさん 88歳  
(種芋原 宅右エ門方)  
草取りやテレビの時代劇を見たり。養命酒とセンプリを毎日。



五十嵐イシさん 89歳  
(池谷 利雄方)  
毎日ひ孫のお守り。おんぶして、お茶飲みにも行きます。

敬老の日に長寿を祝って、県知事および村社会福祉協議会から、次の方々に記念品や色紙が贈られます。(敬称略)



長島多郎吉さん 88歳  
(虫亀 辰太郎方)  
テレビのニュースと新聞は必ず見ます。草取りや冬はワラ仕事。



坂牧 トメさん 87歳  
(種芋原 仁一方)  
毎日、家事や畑仕事に出かけます。耳も達者です。



川上 彦七さん 87歳  
(種芋原 健三郎方)  
毎日田んぼに出かけて何仕事でもします。山の大将です。



長島 ムツさん 87歳  
(虫亀 健治方)  
テレビの「おしん」や相撲が大好き。外に出て草取りなども。



川上 キシさん 87歳  
(向田 孫治方)  
台所に入って炊事したり、家の周りの草取りもします。



田中 留吉さん 87歳  
(虫亀 良宗方)  
毎日2、3合の酒をゆっくり飲み、これが楽しみと健康法です。

小川セキ、坂牧トラ 虫亀—長島テイ、長島兵二、松田文平 竹沢—高野マサ、星野要治、星野光男、佐藤博英、星野熊蔵、小池ヤマ、星野ヨキ、星野ミツギ、星野セキ 東竹沢—藤井フジ、関マチ

このほか、今年度末で七十五歳以上の方二百四十二人、および六十五歳以上の在宅で寝たきりの方五人に祝葉が贈られます。

## 転作にご協力ありがとうございました

来年からは第三期対策に

達成率は118%

「水田利用再編対策」も六年目となり、第二期対策の最終年度となりました。

農家にとっては大変厳しい政策ですが、みなさんのご協力により一七八%という高い達成率をあげることができました。

しかし、その転作内容を見ると、大豆や飼料作物などの特定作物は一七%しかありません。青刈稲の活用が低い、レンコンを植えたまま何年も放置して干上がった田、植えた作物を収穫しない、捨て作

りなども見受けられます。転作目標面積を達成したとはいえ、難しい課題を残しています。

来年からは、新たに「水田利用再編第三期対策」が始められる予定です。ここで、今年度転作のトップとなっている水田養魚ですが、この大半を占めている五十六年度実施田が、三年を経過したため来年度は実施面積からはずさされます。このため、さらに厳しい内容となつてくると予想されます。

地区	実施農家数	目標面積	実施面積	作物等の内訳			達成率
				特定	水田養魚	その他	
種芋原	120	805 a	885 a	78 a	275 a	532 a	110%
虫亀	68	313	340	22	241	77	109
南平	34	209	299	86	100	113	143
竹沢	66	266	274	58	97	119	103
東竹沢	45	237	357	112	63	182	151
合計	333	1,830	2,155	356	776	1,023	118

## 9月21日～30日 秋の全国交通安全運動



交通事故による死者は、昨年は6年ぶりに9,000人を超え、今年もさらに増加しています。とくに子供とお年寄りの交通事故に注意しましょう。

### 種芋原駐在所にパトカーを配備

8月8日、種芋原駐在所にパトカーが配備されました。「夜の見回りが楽になって活動範囲が広まった。サイレン鳴らして走ることのないよう、みなさんをお願いしたい」と山口駐在所の巡査部長が話していました。



# 荒木辰男さん一家が転入

一生暮らすなら山がいい、が、やはり雪が「こわい」……

七月の末、永住の地を山古志村に求めた一家が移ってきました。

荒木辰男さん(43歳)、奥さんの康子さん(44歳)、長女の愛子さん(20歳)の三人。神奈川県横須賀市から種芋原への転入です。

都会から、過疎や豪雪に悩む地への移住、しかも最も働き盛りの歳。その決意や今後の抱負を伺うと、「それがいちばん難しい質問、またやつと少し落ち着いてきたばかりで……」という荒木さん。転入のいきさつや近況を話して

れました。

一生暮らすなら山がいい

「主人は生まれも横須賀、ずっと海の近くで生活してきたのですが、一生暮らすなら山がいい」と。

六月五日のテレビ番組「遠くへ行きたい」で山古志や守門、入道瀬が紹介されたとき、「あんなの行きたい所、こんな所でしょ」、「おおそうだ」。——全く知らない土地なので、テレビ局に役場の



荒木さん夫妻

電話番号を聞き、それぞれの役場に電話をかけたといいます。ちょうど種芋原に転出のため空いた家があり、現地を見て購入、家を改装し、移ったのが七月二十九日——テレビを見てから移るまで二か月足らずでした。

窓から見える豊かな自然

横須賀ではご主人は造船所に勤め、軍艦を造っていました。ミサイルの搭載などもやり、町中でも家の中でも「いつ戦争になるの」と、せっぱつまった感じだったといひます。それに、周り中上場で、四季もほとんどなかったと。

こちらでは、窓からは山並が見え、リスもいる、キツネの声も聞こえた、また「こんなきれいな月を見るのは始めて」と、四季のはつきりした豊かな自然を満喫できるといひます。

だが……

未知の雪が「こわい」

山古志に来て、まず人に言われるのは「雪」。大雪の経験のない

荒木さんにとって不安はますます募ります。「どこへ行っても雪のこと。忘れようとしたころ、また言われたり……。今も考えるのは雪のことばかりで、正直いってこわい。具体的に何がこわいということじゃないけれど……」

長岡市の鉄工会社に勤務

荒木さんは造船所での技術経験を活かして、お盆過ぎから長岡市の鉄工会社に勤務。しかし、「最初の話では、給料がむこうの半分以下、ショックだった」といひます。いっぽう奥さんは「それで、何とか暮らしているんだから」。現在、荒木さんの技術の優秀さは、会社での評価が急速に高まっているとのこと。

また、四輪駆動の自動車を通勤用に使い、冬も「人が通っているのだから、そんなに不安はない」。

お茶飲みに行ったり

奥さんが、山古志に来て感じたことは「ちょっととした品物がないですね。この前ソバ食べようと思つたらネギが売っていない。好きな魚がない」と、生活習慣の違いでちょっと戸惑いの様子も。「村の人は親切ですね。外で遠くから「おはよう」と声をかけられたり、お茶飲みに行ったり、も

つといろいろな人と話し合い、いっしょに仕事し合い、友達をつくりたいですね」と。

「なんとかしなくちゃ」「いつでもなんとかしなくちゃ」という頭を持ってきた。これだけでいいんだ」というのは好きじゃない。それに、関東人の心の強さ」というものも持っている。だから、雪にしても、仕事にしても……と常に前向きにゆきたいということでした。



長女の愛子さん

今、新しく山古志の生活に根を下ろし始めた荒木さん。ここで生まれ育った私たちとは違った目で村を見ていることでしょう。

荒木さんがここでの生活に自信を持つことができたなら、私たちにとても村に住む大きな自信につながるのではないのでしょうか。荒木さんが「第二の故郷を山古志にしてよかった」と思うようになることを願ってやみません。また来年の春、お話を伺いに行きたいと思ひます。



## ▲第15回村レク大会

8月21日、第15回村総合レクリエーション大会が行われました。会場の山古志中学校のグラウンドには約800人の村民が集まり大盛況に。

8つの種目で競い合い、玉入れやママさんバレーボールでも1位になった種芋原チームが290点で優勝。2位竹沢277点、3位東竹沢270点、4位池谷232点、5位虫亀157点でした。



## ▶池谷カラオケ大会

お盆には各地区でカラオケ大会が盛んでしたが、三が地区でも、八月十七日に池谷小学校で地元青年会の主催で開かれました。百五十人の聴衆の中、三十七人が自慢のものを披露しました。スキで作った即席の花束を手にして得意げに歌う人、カラオケの音楽と歌がなかなか合わない人、デュエットできれいなハーモニーを出す女の子など……。優勝は「ひとり酒」を歌った川上孫一さん(天久保)でした。



## ▶池谷集落センター 完成

池谷集落センターが七月二十日完成しました。木造二階建百二十㎡(三十六・四坪)で、二十三畳半の大広間、八畳の小会議室、調理室などを備え、その活用が図られています。地元ではこの完成を祝い、八月十日に竣工式を行いました。

結果はシャークス九勝〇敗一分で優勝、二位アパッチ、三位小幡土建、四位ウィークス、五位イーグルス、六位エンペラー。



前期ナイターリーグ戦優勝もシャークス  
前期ナイターリーグ戦は、五月初めからお盆前まで、十三チームにより六十六試合が行われました。

## 野球

教育長杯はシャークス

七月三十一日に行われた教育長杯争奪野球大会は、早朝から夜まで、九チームによるトーナメント戦で熱戦が繰り広げられました。優勝杯はシャークス(竹沢地区、星野重行監督)の手に、また準優勝はアパッチでした。

# 成人式を終えて— 「酒飲むと、人って変わるのね。新しい発見…」

長島多寿子さん (20歳) は、今年成人式を終えました。お父さんは清治さん。



「初めていっしょに飲んだんですが、酒飲むと、人って変わるんですね。新しい発見。おとなしいはずだった子が、やたら陽気に騒いだり、マイク持ってはなさないとか……」

「何年たっても同級生。よそよそしさなんて全然感じなかったし、やっぱり山古志人に通じるのね。山古志中、種学原中ということも最初あったけど、弥彦で飲んだら、うちとけて話もできたし。帰りのバスの中では、もうみんなでカラ

「よかった。村に残っている者にとって「みんな来るかなあ」と心配だったのですが「いっっぱい集まって予想以上に盛り上がった。」

「自分の家にいるからって甘えないう、けじめをつけるようにがんばっています。出勤時間とか休み時間とか……。休みの日に家にいると仕事をいつけられるので、車に乗ったり、友達の家へ行くようにしてあります。行きたい所いっぱいあるんですけど、ドライブもあきたみたいだし……。でもガソリンはタダ」

「せかされて結婚したくありません。理想もありますが、気がついたら好きになっていった、そんなふうになるって気がします」

## 社会教育調査にご協力 ありがとうございました

教育委員会では、これから策定する『社会教育計画』の基礎資料とするため、七月に社会教育調査を行いました。

この調査はアンケート方式で、無作為で選んだ七百八十七人の方々にお願しました。お忙しい折にもかかわらず早く回答をいただき、九〇%を超える回収率をあげ

合える会にしたいと思っておりますので、多数おいでください。

▽期日、会場

〇月〇日(金)種学原農協2階

〃 13日(火)虫患診療所2階

〃 20日(火)竹沢農協2階

▽時間—午後8時~10時

▽内容

・映画『善悪のけじめを育てる』

・座談会(お茶を飲みながら)

▽主催—教育委員会

## 題名のない 家庭教育講座

次のとおり、家庭教育についての映画と座談会を開きます。今回はとくにテーマ(題名)をつけません。気軽に集まって話

動物愛護週間  
9月20日~26日

1度飼ったら  
最期まで



## 子供の家庭教育を考える(2)

### 幸せに生きたい

先日、北海道で四五〇グラムの赤ちゃんが生まれ順調に育っているというニュースがありました。四五〇グラムノちなみに、牛乳ビンは(中味とビン合計で)約四五〇グラムです。そんなに小さな赤ちゃんがすもうの高見山ほどに大きくなる可能性もあるわけです。

この赤ちゃんにどんな人生が待っているでしょう。四五〇グラムの赤ちゃんも、山古志村の赤ちゃんも……全世界の赤ちゃんが、幸せでありますように、と願わずにおられません。

トイレに一人で行けません。歩けないのです。食事も一人できません。口が上手に動いてくれないのです。人との会話も不自由

「幸せに生きてください。幸せに生きていきなさい」と。そして幸せってなんだろう、どう生きることが幸せなんだろう、と雲をつかみたい気持ちを味わいました。

「幸せ」——広辞苑には「みちたりの幸せとは、だいたいわかります。赤ちゃんの心が安定しているように大人(親)がとりはから



「まず、自らが幸せになってください。それがあなたのまわりの人をも幸せにするのです。自らが幸せになることが、実は家庭教育の根本的なことでもあるのです」と。先の赤ちゃんの幸せも、おぼあ